

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東大阪キャンパス情報学部棟(仮称)	階数	地上4F
建設地	大阪府東大阪市新上小阪	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	2,435 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2022年8月 予定	評価の実施日	2022年7月13日
敷地面積	7,439 m ²	作成者	板東 真央
建築面積	3,306 m ²	確認日	2022年1月30日
延床面積	8,702 m ²	確認者	小林 拓夫



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆ 100%超: ☆

① 参照値 100%

② 建築物の取組み 77%

③ 上記+②以外の 77%

④ 上記+ 77%

0 46 (kg-CO₂/年・m²) 92

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.9

3 設計上の配慮事項		
総合	東大阪市にある大学の敷地内増築工事である。既存樹木の残置や移植をし、生物資源の保存・復元を積極的に行なっている。	その他 特になし。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆の建築材料を採用し空気質環境の向上に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内緑化、屋上緑化に努め、温熱環境に配慮している。
LR1 エネルギー	高効率設備を採用し省エネに配慮している。	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 排出量削減に配慮している。
Q2 サービス性能	ゆとりのある空間形状とし快適性に配慮している。	
LR2 資源・マテリアル	省水型機器の採用やリサイクル材の使用により省資源に配慮している。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R2-0109

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	東大阪キャンパス情報学部棟(仮称)新築工事						
	建設地	大阪府東大阪市新上小阪						
	用途/区分	学校(大学等)						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						S	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						4	
③	建物の断熱性						5	
④	エネルギー削減						4	
⑤	自然エネルギー直接利用						○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】								
	項目	評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.9	4	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				4.0	4	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				4.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				4.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				4.5	5	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				3.9	4	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				5.0	○	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項							